

AIDSネットワーク横浜 ニュースレター



発行：特定非営利活動法人 AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9F

TEL：045-201-8808 fax：045-201-8809

h p <http://www.netpro.ne.jp/any/> e-mail any@netpro.ne.jp

会員も一般参加の受講者も共に学び合った 10 講座

第 26 期ボランティア学校 充実した 内容で終了しました 中野久恵

7 月 7 日に始まり、約 3 カ月にわたって開講した第 26 期ボランティア学校は、10 月 6 日の最終講座をもって終了しました。受講者は 10 講座で延べ 197 名を数えました。会員の受講は 105 名、会員外は 92 名でした。会員外では、21 名の参加があり、そのうち 7 割以上を出席された 4 名の方に修了証をお渡しできました。

受講者は、学校関係者、行政職員、多言語センター職員、助産師、保健師等、多方面で活躍されている方でした。今後への活動を期待しています。

【講座全体を通しての受講者の感想】

- ◎ 勉強になりました。参加してよかったと思います。
- ◎ エイズの現状、治療の進歩などよくわかりました。当事者のお話を聴けたことも、（エイズが）特別のことでないと実感できました。
- ◎ 非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- ◎ 2 回受講しましたが大変興味深く学習できました。ありがとうございました。
- ◎ 相談者の話を聴くだけでも問題を解決する方法につながる事を再認識できた。相談を受けるときに「中立性」を保ちながら相談者の感情を共有（共感）するのが実際にはとても難しいことではある。特に電話で相談を受ける者は、相談者の表情とかが分からないのでもっと練習したいと思った。本日受講できた知識等を応用して、相談者（患者）と一緒に解決法及び適切な治療等を探していけるよう努力したく思う。



出前講座報告

県立綾瀬高等学校 1 年生 11 月 1 日 担当 事務局長 堀尾吉晴

報告：中野

今回報告するのは、性感染症予防講演会「自分と相手とを守る性」と題した出前講座です。事務局長の堀尾さんが講師です。学校と打ち合わせの上、約 360 人の高校生に話します。限られた時間の中で伝えたいことをグラフや図、写真を示しながら説明していきます。

盛りだくさんの情報ながら生徒たちはしっかりと受け止めてくれている様子がアンケートから読み取れます。生徒の感想と質問、質問への堀尾さんの回答を掲載して出前講座の一端をお伝えします。

【生徒の感想や質問】

- ・知らなかったことが多かったが講演会を経て理解できた。信頼関係が大切だと思いました。わかりやすかったです。
- ・今回は私たちのために講演会を開いていただきありがとうございました。ためになりました。(他多数)
- ・性行為には意外と怖いことが潜んでいるのだとわかった
- ・コンドームの達人で勉強します
- ・LGBT の T と Q の違いがわからない
- ・友人で HIV に感染した人はいますか
- ・性感染症は怖いと思った
- ・中学では柔らかく伝えられたけど、今日はドストレートで話してくれて自分のためになった。(他数名)
- ・レイプってなんですか
- ・生きていく上で大切なことを学びました
- ・避妊が大切って知った。振られる勇気も必要だと知った。
- ・コンドームで防げるのはエイズだけですか

- ・感染症についてもっと詳しく知りたかった
- ・自分の身は自分で守ろうと思った
- ・生まれる人より中絶される子の方が多いことに驚いた
- ・自分を信頼し、信頼できる相手と付き合う
- ・大人からしっかり正確に教われる機会があることはすごいと思う
- ・検査についての説明がわかりやすかった
- ・男女両方いるのでワードはあまり言わないでほしい
- ・性感染症で死ぬことってありますか
- ・大切なことを教えてくださりありがとうございます
- ・日本人は性に関することを恥ずかしいと思っている人が多いがもっとよく知っておくべきと思うことがたくさんあったので多くの人に知ってもらえるよう頑張ってください



【堀尾さんから生徒への回答】

・男性がピルを飲んだらどうなるか

⇒ ピルの主成分は、黄体ホルモンという妊娠を維持する＝月経が起こらない＝物質です。子宮や乳腺（母乳を作る器官）に働きます。男性には子宮も乳腺もないから、影響はありません。ただし、卵胞ホルモン（女性ホルモン）が含まれている場合には、飲み続けると乳房が膨らんでくることがあるかもしれません。

・LGBTのTとQの違いがわからない

⇒ T（トランスジェンダー）は体の性と心の性が異なる人。体は女性だけど、心は男性（それで性別変更した生徒もいます。「先生～オレ男になったよ」と報告に来ました。）」のように、明確ならTですね。でも体は女性だけど、心の性を決めきれないヒトもいたっておかしくないよね。性的な欲望があるのか無いのか、対象が男性なのか女性なのかが自分でも判らないヒトがいたって・・・ヒトの性はそれぞれなんです。ある枠の中に収めようとするのに無理がある。無理に収めないで、それらをQ（クエスチョニング）と言っています。

・友人でHIVに感染した人はいますか

⇒ いますよ。ただ、亡くなってしまったけど。知人は何人かいます。

・レイプってなんですか

⇒ 「性的暴行」と言います。自分の意にそぐわない性的行動を他者にむりやり行われること（被害者の立場から）。性的行動は、性器の接触だけでなく、キス、性器・乳房を見る・触れる、下着を見る・脱がす・・・など広範囲です。異性間でも同性間でもです。男同士でズボンを脱がすのも性的暴行＝犯罪です。

・コンドームで防げるのはエイズだけですか

⇒ ペニスの挿入での性感染症は防げます。梅毒やヘルペスは、発疹の部分が粘膜につくと感染しますし、クラミジアや淋菌はのどに持っていればキスでも。HIVも針刺し事故で感染した例もある。でも一番感染するのが性器の接触です。どの性感染症でも、コンドームが一番有効と言っていいでしょう。

・性感染症で死ぬことってありますか

⇒ あります。「治療せずに放置しているとほぼ死ぬ」のが、HIVと梅毒（最近では死ぬことは減ってる）。尖圭コンジローマ（HPV）が子宮頸がんを発症させ、それが転移して・・・。

★ 質問のほかに、色々な感想を書いてくれました。

「男女両方いるのでワードはあまり言わないでほしい」という感想には、「日本人は性に関することを恥ずかしいと思っている人が多いがもっとよく知っておくべきと思うことがたくさんあったので多くの人に知ってもらえるよう頑張ってください」という感想が答えになるかな。

「自分の身は自分で守ろうと思った」、「自分を信頼し、信頼できる相手と付き合う」だよ。自分を守る、自分を信頼することが出来る自分を創ってください。それは、相手を守ること、相手を信頼することにつながります。そうすれば、「振られる勇気も必要だと知った」ことも実践できるよ。

それが、知性！

よく聴いていてくれました。ありがとう。

ほりお



世界AIDSデー in Yokohama

～ UPDATE！エイズ治療のこと HIV検査のこと～

日時：11月17日（土）11時～16時30分

会場：新都市プラザ（そごう前地下広場）

今年の横浜でのエイズデーのイベントは11月17日に行われました。

ANYからも13名がスタッフとして参加しました。事務局長の堀尾さんは本部席で一日アナウンスやバルーンコーナーなどの担当に張り付きでした。毎年、ボランティア参加してくれていた竹原さんは大学4年生になり、学生生活最後の参加となりました。竹原さんは、マスコットキャラクターのコムちゃんに2時間続けて入り、汗だくの奮闘でした。ANY会員は、レッドリボン作りやパズルに挑戦してくれた子どもたちやその保護者の方たちと“レッドリボン”をキーワードにエイズについて考える時間を持てました。

【パズルに挑戦の子ども達】



【レッドリボン作ってみよう！】



【にぎわうANYブース】



【道行く人に呼びかけるスタッフ】



【勢ぞろいしたANYスタッフたち！】

みんな、笑顔！！



お知らせ

電話相談件数 9月 67件 10月 65件 11月 65件

ボランティア学校9・10 講座の報告 カウンセリング講座 小島賢一

(荻窪病院血液科 臨床心理士) 報告中野

カウンセリングって、何？

小島先生は、「H I V / A I D S の治療」(7月7日)に続いての講座です。

そもそもカウンセリングってなんだろう、広い意味では相談と同じ意味で使われている。

狭い意味のカウンセリングでは、オリエンテーション、ガイド、ガイダンス、コンサルテーションがあり、その内容の説明がありました。カウンセリングは、「H I V 陽性だった。妻にどう伝えたらいいの?」、「妊娠が分かりH I V 陽性だった。産む?おろすの?」、「H I V 陽性が分かった、どう生きていったらいいの?」といったような専門家も答えを持っていない「答」がない問題を話し合うのがカウンセリング。また、答えがあっても、その答えを飲めない時に解決方法を一緒に探るのがカウンセリングです。

カウンセリングの基本

カウンセリングの基本は、①聴くこと(聴き上手であること)。

その中で困難なことは聴くよりもつい、助言や指導を考え、助言できないと役に立たないと考えがちである。

次に困難なことは、中立性を保つこと。熱心に聞けば聞くほど、自分の価値観との相違で、つい反応し批判も出てくること。「棚置き」できることが必要。例えば、「血液製剤による感染は気の毒、でも、性感染による感染は自業自得ではないの?」といった自分の価値観があった時、自分の価値観を「棚置き」できるようになることが必要。

基本の②、相手の身になること(共感)。

言いにくい話には手土産がついてくる。どうしてその言葉が出てくるのか考える。心の中で何の仕事をしているのか考える。例えば、「何

人の陽性者がいるのですか?」と聞かれたら、「どうして人数が気になるの?」と聞いてみる。

基本の③は、安全の確保。(プライバシーの保護)

困難の1: ほうれんそう(報連相)

・言わないこととは違う。その人が秘密の伝わり方と範囲を管理できること。

基本の④は、(自分に対して)正直さ。(自己一致であること)

困難なことは、自分の中に偏見はないか。例えば感染ルートによって同じ対応ができるか。

基本の⑤は、整理すること(専門的には解釈)

整理の効果は、自分の悩みが分かる。相手の理解度が確認できること。

基本的な講義の後、参加者同士が相談をする側、相談を受ける側に分かれてロールプレイによる演習を体験した。

【参加者の感想】

- ◎ とても面白く学びの多いひとときでした。人を思う、人を支える気持ちについて改めて大切にしていきたいと再認識しました。
- ◎ 「カウンセリングとは」をわかりやすく説明してくださりよくわかりました。告知に関しての言葉がけも示していただけたことはとても役立つと思います。
- ◎ 自分の価値観を押し付けない、聴き上手、自己一致などについて再認識が出来ました。
- ◎ ロールプレイによって、クライアントの気持ちに寄り添える体験ができてよかった。
- ◎ 講座のおかげでH I V に感染している人たちに対してどう接するかちょっと自信を持てるようになりました。これからH I V / A I D S 活動に力を入れたいと思います。

- ◎ 普段、頭の中でごちゃごちゃに位置しているものがこうした機会に整理され、ありがたかったです。
- ◎ 一連のお話をこまやかな注意点を交えてお話していただきとてもためになる講座でした。

た。私自身のH I Vの知識が足りない中、カウンセリングのロールプレイは難しいところもありましたが、現在の活動にも取り入れられそうなことも多いと感じました。ありがとうございました。

H I Vと性の教育UPDATE !

いまどきのエイズ・性感染症事情と新たな取り組み

主催 ぷれいす東京 協賛 日本性教育協会 日時 11月3日 受講報告 中野久恵

文部科学省が17年ぶりに「教職員のための指導の手引き ～UPDATE！エイズ・性感染症～」を改訂しました。その改訂について①改訂委員の立場から 池上千寿子さん②当事者・外部講師の立場から 加藤力也さん ③支援者の立場から 生島嗣さんの3人の方から講話がありました。後半は、学校で教育を進めていくためのアイデアを参加者同士で出し合うグループワークを行い発表しました。（紙面の都合で①③について報告します）

池上千寿子さんは、改訂のポイントを①スティグマ（汚名、烙印という意味）の軽減のためにイメージの変換をあげられた。

従来は、H I V陽性者はH I Vを感染させる加害者、感染したらエイズになって死ぬ、学校にH I V陽性者はいないというイメージだった。そのようなH I V陽性者をあぶりだして排除するような態度や偏見が感染を拡大させる、陽性者を避けることが予防ではない、H I V陽性者はどこにでもいて、当たり前で生きているということを共有していきたいと示された。

ポイントのその②は、H I Vに感染したらどうなるのか、感染後ライフに言及する。「エイズはこわいけど、患者を差別しないで仲よくしよう」だけではすませないこと。

その③は、本文に書けないことはできるかぎりQ&Aに盛り込んだ。文科省とのやり取りで本文に書けなかった裏話があったようです。本文は7頁、Q&Aに多くの頁をさいています。

生島嗣さんからは、H I V陽性者の生活と健康をテーマに、全国調査を5年ごとに実施した報告があった。2003年～2004年実施と2013年～2014年実施の10年の変化と傾向では、①抗H I V薬の服薬割合は、74.5%から94.5%に増加②服薬回数は、一日1回服薬が増加、2回服薬が減少③身体障害者手帳取得割合は、増加④今後の就労意向「とくに制限しないで働きたい」の割合37.2%から58.4%に増加⑤障害者枠で就労の割合は、2.9%から4.0%に微増⑥60歳以上の割合は、

2.8%から12.6%に増加⑦職場でのカミングアウトは、やや減少。

「UPDATE エイズのイメージを変えよう！」は、平成29年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマです。

医療者による針刺し事故、1回あたりの感染率では、B型肝炎ウイルスは10～30%、C型肝炎ウイルスは2%、HIV感染は、0.3%。

2016年国際エイズ会議で発表されたヨーロッパのパートナー研究では、ウイルス量が検出限界未満であれば、コンドームなしでセックスしても、異性間であっても同性間であってもパートナー間でのHIVの感染はほぼゼロである、ということがわかった。

その内容は、片方が陽性・片方が陰性のカップル(MSMおよびヘテロ)を対象に実施。陽性者の方がART治療中でウイルス量が200コピー以下に維持されている陽性と陰性のカップルにおける、コンドームを使わない

膣および肛門性交の頻度とHIV感染率の評価の結果、888カップルの約58000回のコンドームなしの性交渉(膣・肛門)が報告された。観察期間中に11人(MSM10人、ヘテロ1人)が新規にHIVを罹患したが、ウイルス遺伝子系統解析の結果、パートナーからの感染はゼロで、パートナー以外との性交渉による感染だったことが証明された。

U=U と表現される意味は、Undetectable (検出限界以下) = Untransmittable (感染しない) ということ。ただし、U=Uは、予防なしでよいという意味ではない。梅毒やその他の性感染症の予防は必要。HIV陽性者も陰性者もHIV検査未受検でも、だれもが自分にあった予防を選ぶ時代になっている。その他の調査結果の報告などたくさんの情報を得られた。

書籍紹介

0歳からはじまる オランダの性教育

著者：リヒテルズ直子

2018年刊 日本評論社



オランダは、思春期に入る前から避妊方法を含めて性教育を行っている国です。15歳の性交体験率(女子16%・男子15%)は、40カ国中36位であり、若者の性交体験率の増加につながっていないという。2012年に性教育が義務化された。その背景には、オランダの4大都市における14歳未満人口のうち、6割が自分もしくは両親の少なくとも一方が外国生まれという移民層が増加したことがある。オランダで育ってきた若者が持つ人権意識や表現思想の自由などの意識と移民層の間で軋

轢が生じてきた。オランダは、2001年に世界で一番早く同性婚が認められた国。LGBTや女性の人権保障を目指した人々とそれらを認めようとしない人々。この両者の乖離を背景に性教育の義務化に向けての議論が始まり、2012年にすべての初等教育・中等教育前期(4歳～15歳)に性教育が義務付けられたのです。

1996年からオランダに住むリヒテルズさんは、具体的に学校で行われている性教育の内容やプログラム等を本書で紹介している。たくさんのヒントが得られる1冊です。(中野)